

| 科目名 クラス 講義区分 | 科目ナンバリング | 曜日 | 科目名 クラス 講義区分 | 科目ナンバリング | 曜日 |
|--------------|----------|----|--------------|----------|----|
| 環境問題概論 <通期> | SOC1420 | 金1 | | | |

【教員氏名】

巖 圭介

【単位数】

4 単位

【授業形態】

『講義』『実務経験のある教員による授業①』（農水省の研究所で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、温暖化や化学物質、水資源と、食糧問題を含む社会の持続可能性について講義する。）

【講義・演習概要】

気候変動、リサイクル、化学物質・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、それをもとに論理的に思考してこれからの自分の行動を決めていかねばならない。この講義では、世界の市民としてこれからの時代を責任をもって生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識と考え方を身につけてもらう。

【学習（到達）目標】

主要な環境問題(気候変動、ゴミ問題、人工化学物質汚染、大気汚染、オゾン層破壊、土壌劣化、水危機、食糧問題、エネルギー問題)について、起きている問題の内容とその原因を説明できる。それぞれの問題に対し、何がなされているか、何ができるかを論理的に人に伝えられる。

【講義・演習計画】

第1回：イントロダクション：持続不可能な地球

第2回：気候変動1：現状と原因

第3回：気候変動2：これからの予測

第4回：気候変動3：適応策と緩和策

第5回：気候変動4：暮らしと対策

第6回：気候変動5：バイオマスエネルギー

第7回：気候変動6：国際的取組み

第8回：第1回イン・クラス・レポート

第9回：イン・クラス・レポートふりかえり

原子力エネルギー

第10回：ゴミ問題1：基本の枠組みと現状

第11回：ゴミ問題2：リサイクル法

第12回：ゴミ問題3：容器包装リサイクル

第13回：ゴミ問題4：LCA

第14回：ゴミ問題5：循環型社会へ

第15回：第2回イン・クラス・レポート

第16回：イン・クラス・レポートふりかえり

産業廃棄物

第17回：化学物質汚染1：DDTとPCB

第18回：化学物質汚染2：ダイオキシン

第19回：化学物質汚染3：農薬と化学肥料

第20回：化学物質汚染4：リスク論

第21回：第3回イン・クラス・レポート

第22回：イン・クラス・レポートふりかえり

水質汚染

第23回：水と土の危機

第24回：食糧問題

第25回：第4回イン・クラス・レポート

第26回：イン・クラス・レポートふりかえり

大気汚染と酸性雨

第27回：オゾン層破壊

第28回：地球の限界

第29回：まとめ：これからの地球に生きる

第30回：総復習

【成績評価の方法】

試験評価：50% レポート：50% その他：0%

イン・クラス・レポートとは、授業時間中に課題してその場で書き上げて提出してもらいレポートで、その時点まで数回分の講義内容を振り返りまとめてもらうことを目的として、テーマごとに4回程度実施する。そのほか、実際に各自で調査して提出してもらいアクションレポートも3回程度実施する。レポートと試験を合わせて成績を評価する。

【参考文献】

環境省編『環境・循環型社会・生物多様性白書』日経印刷、遠山益『人間環境学』 裳華房 2001、安井至『市民のための環境学入門』丸善ライブラリー 1998、東京商工会議所『ECO 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター 2017他、松永和紀『メディア・バイアス』光文社 2007 他、適宜紹介する。

【事前および事後学習の指示（事前学習 60 時間 事後学習 60 時間）】

日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれておくこと。授業では板書の負担を軽減するため穴埋めプリントを配付するが、その穴を埋めるだけで済むわけではない。ノートを取り、配付資料の内容と授業後に統合して整理することで、はじめて十分な理解ができるはずなので、次の授業までにきちんと復習をすること。

【その他備考（担当教員用）】

授業内容の順番やイン・クラス・レポートの日程については、進度や都合によって多少前後することがある。

【キーワード】

環境、持続可能性